

啓伸塾 便り

新聞・本を読むほど正答率高い

文部科学省の全国学力調査と同時に行ったアンケートより

2021年度全国学力テストの児童生徒アンケート結果を文部科学省が分析したところ、新聞を読む回数が多い子どもほど、また、親の蔵書量が多いほどテストの正答率が高くなるという相関関係が全教科で示されました。

新聞をほとんど、全く読んでいないと答えた小中学生は、過半数を越えていると新聞記事は伝えています。新聞の発行数は年々減少しています。新聞を取っていない家庭は、今ではそれほど珍しくはありません。

小学校の国語・算数、中学校の国語・数学の全教科で「ほぼ毎日新聞を読む」と答えた児童・生徒の平均正答率が最も高く、読む頻度が下がると正答率が低くなりました。例えば、小学校国語の正答率は「ほぼ毎日」と「ほとんど、全く読まない」では、約12パーセントの正答率の差があります。

また、「家庭の蔵書数」を初めて調査した結果、25冊以下が3割を占めた一方、蔵書数が多い方がテストでの正答率が高くなる傾向が明らかになりました。

もう少し詳しく説明すると

- 0～10冊 小学生 11パーセント・中学生14パーセント
- 11～25冊 小学生 19パーセント・中学生30パーセント
- 25冊以下が3割を占めることとなります。
- 26～100冊 小学生 34パーセント・中学生32パーセント
- 101～500冊 小学生 32パーセント・中学生30パーセント
- 501冊以上小・中学生とも5%

学力テストの正答率をみると、小学校の算数では、親の蔵書数が最も多い子どもと最も少ない子どもでは18ポイントの差があり、中学校の国語でも15ポイント差が開くなど、蔵書数が多い方が、正答率が高くなる傾向がみられました。

テストの正しい活用法！

中学生のみなさんは9月に前期期末テスト、中学3年生のみなさんはそれに加え、実力テストがありました。緊急事態宣言が出され、テストが2週間延期になった中学校もあり、テスト勉強の時間は今までより、たっぷりありました。その甲斐あって、点数を伸ばしてくれた子が多かったです。中には、平均点が下がったにもかかわらず、驚くほど点数を伸ばしてくれた子もいます。

次のテストで自己ベストの点数が取れる正しい勉強法について、みなさんにご紹介します。

小学生のみなさんも必読です。小学生の時こそ基礎学力と正しい勉強法を身につけるべきです。それを身につければ、中学では上位の点数を楽に取ることができます。

テストは結果も大切ですが、結果そのものが大切なのではありません。自分の理解度をはかる一番のツールとして、終わってからどう活用するかが一番大切なのです。間違っただけ箇所を見直して、なぜ間違えたのかを考え、繰り返し練習し、二度と同じ間違いをしないことが大切なのです。


また、見直す際、特に暗記が中心になってくる理科・社会は、教科書でその問題の箇所を見直すと、その箇所の授業が記憶によみがえり、覚え直すことが容易になってきます。


算数(数学)などの計算問題などでは、間違えた問題を見直しもせず、もう一度最初からやり直すと、また同じ間違いをしてしまいます。これでは時間の無駄です。できる子は、必ずこの見直しをして間違えた原因を突き止めます。また、間違っただけをノートに書き写し、自分の苦手な箇所だけを集めたオリジナルの問題集を作り、もう一度やっている子もいます。

小学生のうちは保護者の方が主導でやる必要があると思います。中学生は学校の宿題の自主勉として活用し、定期テスト前にもう一度やってみるとよいでしょう。

中学生のみなさんが、期末テストの結果と答案を持ってきてくれました。答案を見るとその子その子の理解度や、問題の解き方、答案の書き方がよくわかります。その子その子に合った指導に役立てることが出来ます。

塾からのご案内が、啓伸塾ホームページ(啓伸塾便り)から見られます。

啓伸塾 HP  keishinjyuku.com

啓伸塾便り  keishinjyuku.com/diary/

10月の予定

中学3年生入試対策講座 2日・9日・16日・30日(土) 13時30分～17時
(後期中間テストの日程により変更になることがあります。)

3日(日) 中学3年生 岐阜新聞学力テスト第2回目 会場 啓伸塾教室
8日(金) 漢字検定 会場 啓伸塾教室 時間は個別でご案内しています。

10月(葉月)
October

基礎学力を重視する学習塾
啓伸塾
ただ今、新入塾生募集中

500冊の本がある家とはどんな家でしょう。大きな本棚が2、3つくらいは必要でしょう。読まなくてもいいのです。そこに本があるということが大きな意味を持つのです。

子供は、親の姿を見ています。子供は、親が言うことばかりではなく、親がやることをまねるのです。

「子供は、言ったように育たない、やったように育つ」

この言葉は、私が中学の恩師に、中学を卒業して数十年後の同窓会で、言われた言葉です。「ここでやったことは、親がやったことを意味します。」

勉強をするつもりで言うことは大切なことですが、それと同時に勉強ができる環境をつくるのも大切なのです。その環境の一つが、家。手の届くところに、本がある環境なのではないでしょうか。

教科書にある問題が解けるようになる。これは、テストの点数に直結します。このような勉強をすることで、テストの点数が上がりやすくなります。しかし、これは中身の無いパブリックと同じです。

教科書にあることを覚えるだけでは限界があります。テストではせいぜい、100点満点で50点が60点しか取れないでしょう。

それ以上取るためにはどうすればよいのか。それは、教科書に出てきたことをただ意味もなく覚えるのではなく、どうしてそうなるのかを考えることです。そのためには論理的な思考力が必要です。その思考力は、活字を読むことで着実に養われていきます。

ありきたりな言葉になりますが、中身のある確かな学力を身につけるために必要な唯一無二の方法が、活字を読むこと、つまり読書です。